

平成29年度 学校評価表

菊池女子高等学校

学校教育目標	各科の目標	今年度の重点目標
1 質素、忍耐、規律、思いやりを基軸とし、知性、学識、健康、道義、友情の形成を高揚する。 2 課程の如何を問わず、常時一人もれなく学習生活の目標をもった生徒の教育を遂行する。 3 その他常に顧みて創立の精神に徹した教育を実践する。	普通科 一般コース 1. 一般的県立普通高校と同一の普通教科の履修。 2. 体育、文化面等に思い切り個性を伸ばし、幅広く楽しい高校生活の創造。 3. 事務系、実技系、あらゆる企業への完全就職。 4. 短大の推薦入学や、准看、美容、調理師等の国家資格取得校への進学。 5. 礼儀正しく、節度ある良識人の育成。 普通科 進学コース 1. 4年生大学、入試の厳しい高専、短大等への進学生であることの自覚と決意の継続。 2. 目標大学及びその受験科目を早期に自主決定すること。 3. 希望校への受験勉強に青春の情熱の一切を賭ける。(家庭学習5時間の確保) 4. 不断の努力と忍耐の成果として、確実に目標大学に合格する。 5. 日々の思索や学習態度を通じ将来、幅広い高度な人生を創造できる人材となる。	○地域間交流 ○世代間交流 ○国際受信・発信 } の意識啓発と活動 ○eトレでのレベルにあった学習支援 ○私学ならではの個性を引き出す教育 ○自分の居場所をつくれる環境の整備
	家庭科 被服コース 1. 被服全般に関する広い知識を身につける。 2. 被服製作の技術を確実に身につける。 3. 被服関連企業への就職又は、技術自営の出来る技能者となる。 4. 女性としての良識を備え、豊かな家庭生活を支える人材となる。	
	社会福祉科 1. 先ず、福祉の心、人間としての真の優しさを養う。 2. 福祉看護の基礎知識、基礎技術を身につける。 3. 介護福祉士の国家資格をとる。 4. 福祉・医療系の上級学校への進学。福祉関係職場に就職する。 5. 将来、福祉社会を支える人材となる。	

A・・・よくできた B・・・できた C・・・あまりできなかった D・・・できなかった

大項目	小項目	評価の観点	実践目標	評価	成果	課題
開かれた学校づくり		家庭や地域への情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 学校のホームページを通じて、学校の情報を可能な限り公表し、週に一度は内容を更新する。 学校便り等を発行し、保護者に学校の情報を提供する。 地域と校外での交流を積極的に行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 様々なイベント等で地域の方とふれあえる機会は増えていっていると思う。 地域への意識が高まり交流できていたように感じる。 生徒募集へつながる。 ホームページの更新がよくできていた。 地域や校外でのイベント交流など発信し、せっきょよく活動している。 部活動で校外との交流の機会を複数回作れた。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭など行事の案内を広くアピールしたい。 ホームページの更新について定期的に見ている人以外は気づかないので、更新メールなどがあってよいと思う。 広域へどう広げるのか。 学校評議員の参加。 ホームページの更新頻度を上げ、活動の様子を地域や学校などにアピールしていければと思う。 個人的に学校評議員会等とは関係を持てなかったのでチャンスを見つける。
		学校評議員制度等を活用した学校運営の推進	<ul style="list-style-type: none"> 学校評議員委員会を学期に1回実施し、各委員から出された意見を吟味し、次学期の学校運営に反映させる。 学校評議員に授業や学校行事に参加していただき、それについての意見を聴取し、授業や行事の改善に役立てる。 			
		地域や関係機関と連携した安全な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 地域や近隣の学校・関係諸機関との連携を密にし、不審者情報を共有する。 			
生徒指導		生徒指導方針の確認と指導体制の推進	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に生徒指導方針を明確に職員、生徒に示し、定期的にその方針の達成状況を確認する。 問題行動の生徒に対しては、学年を中心に組織的に指導を行う。 校内巡視を適宜行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援の強化により学年間で連携が取れるようになってきたと思う。 問題行動生徒に関しては学年での密な情報共有ができた。 事故や問題が減少。 生徒教師間の距離が近く、相談しやすい雰囲気である。 外部講師による講演など専門性を生かした指導が出来ている。 家庭訪問など学年を中心に良く取り組まれた。 各担任の先生方が、親身になって教育活動をしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> LHRなどで、月1回もしくは2ヶ月に1回は外部による講義や講習をやりたい。 カウンセリングについてはSCが小中学校で居るのが当たり前になっているため、いない場合は教員が技術を身につける必要もある。 生徒の自立へ向けた指導の徹底。 校内カウンセラーの導入。 生徒との距離が近すぎないようにする。
		生徒の内面の理解を図る指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 生徒とのコミュニケーションを密にするとともに、家庭と密接な連携を図り、必要であれば家庭訪問を行う。 カウンセラーによるカウンセリング研修を実施し、生徒の内面理解を図る指導法の共有を図る。 			
		生徒の自主自立の精神を育む指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会が設定した課題について、生徒会を中心に討論会をもち、生徒の自立の意識を高める。 生徒会行事については、実行委員会を設置し、生徒が企画・運営を行う。 			
		薬物乱用防止、交通安全指導を行う	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師による講演。ホームルームや保健等で薬物乱用防止を徹底する。 交通ルールの遵守や交通マナーアップ指導の徹底を図る。 			

進路指導	進路指導体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見据えて、進路指導に関する年間計画を作成し、組織的・継続的に進路指導を実施する。 ・進路状況・結果について、進路指導部と各学年が連携し、分析・対策を検討する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・7時間目を活用してeトレに良く取り組んでいた。 ・大半の生徒が希望する学校や職に就くことができたことは成果だと思う。 ・生徒への進路指導はよく行われていた。 ・eトレを意欲的に活用する姿が見られた。 ・eトレで積極的に自学に取り組む生徒が増えている。 ・eトレを活用し、7限目に学習支援の先生と一緒に学習に取り組む生徒がいた。 ・1年生からたくさん今年度は進路のガイダンスなどに参加でき、生き方について考えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・eトレについては取り組みに個人差がある。 ・eトレの進め方の改善。(部活との兼ね合いなど) ・進学・就職後の生徒のリサーチや支援をもっと強化すべき。 ・生徒への指導が保護者へ伝わっていないため、「進路通信」のようなものがあつたらよいと思う。 ・時間の有効活用を考える。 ・1年次からの進路指導。 ・eトレの活用に関しては個人差もあり、全校生徒がうまく利用できる時間確保が必要だと感じる。 ・eトレでのやらない生徒への意欲向上の仕方を考える。
	職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による進路講演会を開催し、生徒の職業観、勤労観を高める。 ・「進路ニュース」等の発行により、生徒・保護者に進路情報を提供し、進路への意識を高める。 			
	主体的な進路選択能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見通して、職業や大学の研究を計画的に実施する。 ・ロングホームルームやその他の学習の時間等で、生徒に自らの生き方なり方を考えさせる。 			
	eトレの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の学び度に応じて個別学習支援システムを利用する。 			
教職員の資質向上	実践的指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開ができる体制を整える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修は充実していた。 ・校外での研修に参加させていただいたことで、最近の動向や課題など学ぶことができ今後活かしていきたい。 ・校内研修を受け、「校務支援システム」あり方を学ぶことができた。 ・研修会参加は個人的には出来た。 ・最先端の授業ではないが、生徒の状況に応じた計画的な授業が行われていると思う。 ・今年度の初任研は良かったと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に対して準備する時間が足りないので、効率的にしたい。 ・地域住民や生徒のニーズを把握しながら求められている教育や課題を検討していければと思う。 ・授業公開日を設ける。 ・全体的な時間が不足している。 ・なかなか忙しくて教科研修などへ行けない。 ・教材研究の時間が確保できない。
	計画性を持った研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・教務・生徒指導等、学校の諸課題について校内研修を計画的に立案する。 ・教員が計画的に校外での研修を受ける体制を整える。 			
	社会の変化に対応した教育観の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・長期社会体験研修や、初任研・年次研修の社会体験研修等を活用し、社会の変化に的確に対応できる教員の育成に努める。 ・地域住民の意識やニーズを把握するためにアンケートを実施し、その結果の分析に基づいて対策を検討する。 			
特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援の必要な生徒に対する対応の仕方を、全教職員で共通理解を ・要支援と思われるすべての生徒の支援会議を定期的に行う。 ・スクールカウンセラーの配属や相談体制が全校生徒に周知されている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援コーディネーターの先生を中心に頑張っていた。 ・特別支援教育コーディネーターを中心に支援会議や対応等行われていた。 ・特別支援や要支援の生徒への特別配慮ができた。 ・会議が開催され、情報が共通のテーマになった。 ・特に要支援の生徒に関しては定期的にはなかったが、即座に行う環境が出来ていた。 ・生徒と担任の間に入っていた事で、生徒、保護者と連携がうまく図れるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内職員間で、共有すべきことがたまに伝わっていないことがあった。 ・SSW以外に週1でもよいので、SCが来校し連携が図れればと思う。 ・SCの配属。 ・全職員で検討会を重ねる。 ・SCの配属がないため、保護者の希望には応えられていない。生徒も要望している。 ・継続が課題。 ・発達障害の研修も必要だが、精神疾患に関する研修も必要。 	
危機管理体制の整備	実効ある学校マニュアルの策定	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の実情に応じた危機管理マニュアルを作成し、定期的に対応訓練を行う。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・地震や火災などに対しては、全校生徒・職員の意識は高まった。 ・不審者の侵入はなし。 ・定期的な訓練があり、生徒も対応力がついていると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者と遭遇した際の適切な対応の仕方を学ぶ。 ・危機管理マニュアルの作成を行い、定期的に見直しや訓練が必要だと思う。 ・マニュアル作成とその周知。 ・心のケアに向けた取り組みを充実する。 ・心のケアについてマニュアルがない。
	家庭・地域・関係機関と連携した危機管理体制の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭・地域・関係機関との連携を密にし、実情に応じた危機管理体制を推進する。 			
	生徒に対する防犯教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルに基づき、不審者の侵入などの危機的事態への適切な訓練を行う。 			
	教員の実践的な研修・訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・危機への対応や生徒の心のケアについての研修を定期的に行う。 			
学校運営全般	学年・学級経営	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標達成に向けた学年・学級の具体的経営方針を立て、その実施に努力する。 ・生徒の資料、指導・実践の記録等を蓄積し、教師間で情報交換を行う。 ・学級員の効果的な活用による活性化した学級運営を行う。 ・美化に心がけ、学習環境を整える。 ・遅刻・欠席・早退・学力不振の早期把握に努め、進路指導部・生活指導部・カウンセラー・保護者と協力しながら中途退学の防止に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学年でまとまって様々な計画を立てられた。 ・特色あるクラス運営が出来ていた。 ・2学年では家庭訪問などを行い、目的達成につなげた。 ・それぞれではあるが、教育目標達成に向け努力している。 ・どのクラスも課題のある生徒はいるが、それぞれのカラーが出ていて活発な取り組みが出来ている。 ・学習できる環境として美化に心がけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公務分掌の役割分担を配慮して決める。 ・公務分掌の見直し、仕事量の格差がある。 ・更なる充実を目指す。 ・分掌通りに動いていない時がある。(仕方がないとも感じる) ・生活指導と進路指導の数を増やしてほしい。 ・見えるところ以外にも気づいて美化に努められるようにする。
	校務分掌	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の慣例に拠らない機能しやすい分掌組織をつくる。 ・それぞれの分掌における重点目標を年度当初に設定し、適宜、取り組みについて評価・見直しを行う。 			
保健・衛生教育	学習環境の美化を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒を中心として環境美化のための奉仕作業を行う。 ・広範囲の区域を能率良く行うために、全職員による監督の徹底を行い、学期毎に大掃除を実施する。 ・外部(学校薬剤師等)よりの点検や検査を定期的に行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭が担任等へ細かく連絡くれた。 ・学校薬剤師との連携を図り定期的に検査や点検を実施することが出来た。 ・感染症の生徒数の減少。 ・保健便りの効果が全生徒に及んだ。 ・感染症に関してはHP等でも報告することで、生徒の意識が高まり、広まることはなかった。 ・どのクラスも掃除はよくやっている。保健室も昨年と比べ、ベッドで休む生徒が少なくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大掃除の時間で、普段できないところを分担してできるように場所を把握する。 ・生徒一人ひとりが自分の健康に対してより関心をもって健康課題等に向き合えるように高めていきたい。 ・保健室の設備の充実。 ・飲食のマナーについて1年次から実施していく。 ・担任が授業・分掌等で手が回らず、早期発見が遅れてしまうおそれがある。 ・面談等の時間が取りにくい。 ・月1回は学年持ち回りで校外や校舎回り、運動場の環境整備を行うとよい。
	健康推進事業の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・心身に問題のある生徒を早期発見するために、カウンセラー、担任等との連携を密にし、早めの対処法を行う。 ・保健室の整備を行う。 ・感染症予防の啓発を行う。 			

		<ul style="list-style-type: none"> ・保健だよりの内容を充実させ生徒の健康に対する意識の高揚を図る。 			
	衛生管理指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食のマナーの指導をする。 ・健康診断等の検診を受けていない者の事後指導を徹底し、病気などの早期発見に努める。 			
事務部	授業料納入促進及び長期滞納者の減少	<ul style="list-style-type: none"> ・事務職員と教育職員が連携・協力して取り組むため、担当者と担任との連絡会等を行う。 ・授業料の納期内納入率を向上させるため、保護者に対し、年3回啓発文書を発送し、納入率を高める。 ・長期滞納者の滞納理由を速やかに把握し、経済的理由により学費負担が困難な生徒に対しては授業料減免等による負担軽減を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業料滞納者は少なくなっている。4月から納入を行ったことがよかった。 ・経費削減の意識が高く安心して任せることができた。 ・教育環境は良好。 ・担任の長期滞納者に対する負担が大きい。 	
	教育環境を整備する	<ul style="list-style-type: none"> ・教育設備等の安全点検を定期的実施し、その結果を記録すると同時に営繕工事計画の基礎資料として有効活用を図る。 ・労働安全・健康促進をはかり、また敷地内完全禁煙に努めると共に完全分煙を図る。 			
	効率的な予算を執行する	<ul style="list-style-type: none"> ・光熱水費削減を目指して省エネ・省資源を推進するとともに費用対効果を考慮した予算の執行に努める。 ・職務遂行上必要な関係法令及び条例規則の習熟を図るため積極的に研修会等に参加し、具体化を図り、職員への周知・伝達講習会等を実施する。 			
PTCA活動 PTCAとは…PTA(保護者と教師)にC(コミュニティー:地域住民)	PTCAとの連携	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や「あいさつ運動」等への積極的な参加協力により学校教育目標の具現化を図る。 ・各行事、イベントの周知。(交流事業の計画、実行など) ・授業参観や教育相談等の合同研修会により、学校を開き、ともに生徒理解に努める。 ・総会・役員会・委員会・学校行事等に参加できなかった保護者に対して情報を提供すると共に、意見を収集する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の挨拶は年々よくなっている。 ・連絡等が保護者へ届いている家庭からは学校につながった。 ・交流事業が展開された。 ・イベント等への生徒参加が増えた。 ・保護者や地域の方との参加型のイベントや行事など多く取り組むことができた。 ・行事にたくさんの人々が参加していた。 	
教育課程について	自ら学び考える力の育成	体験的・問題解決的な学習の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップなどの体験的な学習や、問題解決的な学習を推進する。 ・教科会議などを中心に体験的・問題解決的な学習の指導法を研究し、実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・水俣病展は非常に良かった。 ・情報提供は小学校並みにできたのではないと思う。 ・意欲的に学習する姿が見えた。 ・水俣病展への参加は生徒にとって有意義であった。
		生涯学習の視点に立った実践能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館や美術館等の社会教育施設との連携を図り、多様な学習機会を設定する。 ・学校設定教科・科目や多様な選択科目を設定し、興味・関心に応じた特色ある教育課程を編成する。 		
	基礎・基本の定着	生徒の学力の把握と評価基準の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・入学時に入学生の学力を客観的にはかるテストを行い、その結果に応じて習熟度別授業や少人数指導などの指導方法を工夫する。 ・各教科で評価基準を設定し、それに基づいた評価を行い、その正当性の検証を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学力テストなどで生徒の実力は把握できた。 ・生徒の能力に応じた適切な指導法になっている。 ・個々の教科で指導工夫は随時行われている。生徒の理解も良い。 ・少人数指導で学力向上を目指す取り組みが見られた。 ・体育科授業研究会が行われた。 ・検定試験を受験する生徒が増えている。 ・ユニバーサルデザインで学んだ板書の仕方などの工夫が見られた。 ・基礎学力向上講座の利用があった。 ・様々な教育への手段・授業法を学べた。
		学ぶ喜びや達成感が味わえる指導方法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で授業研究を行い、生徒の興味関心を呼び起こす指導を工夫する。 ・各教科専門部会やその他の研修会に積極的に参加し、魅力的な授業づくりの工夫をする。 		
個に応じた学習指導の徹底	評価方法の創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自己評価など様々な評価方法の導入を図る。・評価方法について全職員で各教科の評価に対して意見交換を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・演習や実技などで学年を合同にして取り組むなどの授業は行えている。 ・実習授業、座学共に効果的になるよう指導されている先生方が多い。 ・それぞれ強化の特性を生かした取り組みがなされている。 ・検定受験者への個別指導が充実していた。 ・少人数ならではの授業展開ができた。 	
	指導形態の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・英語・数学等で習熟度別授業や支援会議で工夫を共有し個に応じた指導を行う。 ・各教科で個別指導、グループ指導、一斉指導など効果的な指導形態を研究実践する。 			
特別活動(学校行事など)	自主的・実践的な活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の活性化や、生徒会活動の積極的な運営をすすめる。 ・リーダー研修会等を通して核になる生徒を育成し、様々な活動への生徒の自主的な参画を促し、生徒会活動全体の活性化を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校内美化作業にたくさんの人が集まった。 ・多くの生徒がボランティア活動に積極的に取り組んでいる。 ・部活動の多様化。 ・環境が整備された。 ・ボランティア活動への参加で生徒自身も社会参加意識が強まっている。 ・今年度も様々な場所で生徒がボランティア活動を行う姿があった。 	
	学校行事の精選と行事内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事検討委員会を開催し、行事の精選や行事内容の充実を図る。 			
	ボランティア活動	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ボランティア活動、献血、募金活動等への積極的な参加を生徒会を中心に実施する。 ・PTA、教職員、地域住民、生徒で学校周辺地域の環境美化に努める。 			

体育・運動能力の向上	教育活動全体における計画的な体育・スポーツ活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストを実施するなど、生徒の体力・運動能力を的確に把握し、3年間を見据えて生徒の体力・運動能力を向上させる学校行事等の計画を立てる。 ・体育大会や球技大会の後は職員・生徒のアンケートをとり、またその結果を次回に反映させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・体育大会は年ごとに反省点等を活かし、よりよいものになっている。 ・生徒一人ひとりが活躍できる体育祭や活動など工夫した指導がされていると思う。 ・体力向上へ結びつけた行事がなされた。 ・生徒の能力にあわせて指導が行われているため、進んで取り組もうとする姿勢が見られる。 ・校内ダンスはとても良い取り組みだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストを毎年行い、自己の能力の把握をさせる。 ・内容を考えていく。 ・集団不安を抱えている生徒もできる内容であるが、入れないため運動不足でもつたいない。 ・体力テストは学校全体として取り組み、BMI等と関連付けて生徒の健康増進に役立てていった方がよい。 	
	生涯にわたる豊かなスポーツライフ及び健康増進の基礎を培う指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自己の能力に応じた運動課題を設定し、その課題を自ら解決することによって、運動技能を設定し、その課題を自ら解決することによって、運動技能を習得したり、高めたりする喜びを味わうと共に、その運動の特性に応じた楽しさや喜びを味わえるよう工夫した指導を行う。 ・体づくり運動を積極的に取り入れ、体育理論との関連を深めながら自己の体力や生活に応じて、活力ある生活を支える体力を高めるよう努める。 		A	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面で芸術に触れる機会があった。 ・できる範囲で本校らしさのある学園祭を実施することができた。 ・文化祭の午前の芸術鑑賞はとても良かった。 ・ハンドメイド同好会でのカレンダー作成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学園祭など時間不足であった。時間確保が課題。 ・4月の段階で学園祭実行委員、役割を決め、生徒会の生徒の声を取り入れるため、他学校へ見学に行かせたり、計画を密に行えば時代に合った学園祭になるのではないかなと思う。 ・イラスト・マンガ・ポスター・パソコンなどが好きな生徒への活動の場を増やしてあげたい。 ・生徒自身が企画して実行させる。
	芸術文化活動	教育活動全体における計画的な芸術文化活動の実施			<ul style="list-style-type: none"> ・芸能鑑賞などの芸術文化行事を計画的に実施する。・学園祭や文化祭等で文化部の発表の場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面で芸術に触れる機会があった。 ・できる範囲で本校らしさのある学園祭を実施することができた。 ・文化祭の午前の芸術鑑賞はとても良かった。 ・ハンドメイド同好会でのカレンダー作成。
防災・安全教育	教員の実践的な研修・訓練 防災教育に係る指導力・実践力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練を行う前に教員による打ち合わせを十分に行い、意識の高い訓練を行う。 ・救急救命講習の受講により、いかなる時にもまず生徒の命を守るという教職員の意識と技術を高める。 	B		<ul style="list-style-type: none"> ・校内での防災訓練はすばらしく対応できていた。 ・交通安全講習会や火災避難訓練など行うことができた。 ・事故報告がなく、訓練も実施された。 ・交通安全指導はHR等を通して啓発を何度も行うことができた。 ・スクールバスを降りた後の事故はあったが、自転車・バイクでの大きな事故が無くてよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・救急救命講習の職員研修を取り入れていきたいと思う。 ・スマホのながら運転をしない。 ・十分な打ち合わせを行う。 ・教職員研修においては2・3年に1回繰り返し行えるとよい。 ・スクールバス指導は次年度は行いたい。
	実践的な安全教育への取組	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭、関係機関との連携を深め、交通安全指導を強化し、自他の生命を尊重する意識を高める。 		<ul style="list-style-type: none"> ・家庭、関係機関との連携を深め、交通安全指導を強化し、自他の生命を尊重する意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・救急救命講習の職員研修を取り入れていきたいと思う。 ・スマホのながら運転をしない。 ・十分な打ち合わせを行う。 ・教職員研修においては2・3年に1回繰り返し行えるとよい。 ・スクールバス指導は次年度は行いたい。 	
人権教育	人権教育推進体制への取組	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見通した人権ロングホームルームの充実を図り、計画的に実施する。 ・年度末に人権教育推進部を中心に、年間の人権HRの実施内容などを検証する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育担当者を中心に様々な場面で取り組みがなされていると思う。 ・人権に対する意識を高めた。 ・3年生を中心にLHRが展開された。 ・問題が起こった時、人権の観点からすぐに指導していただける環境が整っている。 ・水俣病展を観るにあたり、事前に配られた資料と説明はとても良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見通した計画が必要である。 ・1、2年生に対して広げていく。 ・3年間を通して計画的にというのは実施できていないが、その時に応じて必要な啓発は出来ている。 ・水俣病、ハンセン病、部落差別問題などは年間指導の一つとしてLHR等で取り入れてほしい。 	
	確かな人権意識の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・人権HLや学校生活のすべての場面において生徒の身近な問題から人権を尊重し合う態度を育てる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・人権HLや学校生活のすべての場面において生徒の身近な問題から人権を尊重し合う態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見通した計画が必要である。 ・1、2年生に対して広げていく。 ・3年間を通して計画的にというのは実施できていないが、その時に応じて必要な啓発は出来ている。 ・水俣病、ハンセン病、部落差別問題などは年間指導の一つとしてLHR等で取り入れてほしい。 	
情報教育	情報活用能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・教科「情報」を中心に生徒の情報活用能力の育成を図る。 ・情報機器の適切な取り扱いと、情報ネットワークの創造的な活用法を身につけさせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・数学の授業内容と情報のPCの技術を融合させた授業ができた。 ・スマホの正しい使い方について理解を深めた。 ・情報での職員研修が開かれた。 ・教科だけではなく、講演会なども通じて情報モラルの育成は出来ている。 ・授業時に生徒の質問に対し携帯を使い、すぐインターネット検索を行うことで効率の良い授業が行えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PC室のインターネットで検索の仕方すらわかっていない生徒がいる。 ・出会い系サイトの危険性について認識を深める。 ・インターネットの普及を考える。 ・インターネットを使った授業については環境が整っていない。 ・スマホの操作はどの生徒も上手だが、PCの使い方は苦手な生徒が多いので技術向上が必要。 ・スマホでは画面が小さいので各教室でパソコンが使えたととても便利だと思う。 	
	情報モラルの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・情報や情報通信技術が果たしている役割や影響を理解させ、情報発信に伴う責任など情報モラルを育成する。 ・人権尊重を基盤として、プライバシーの保護や著作権の尊重等の重要性を考えさせ、出会い系サイトやインターネットショッピング等に潜む危険性について指導する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・数学の授業内容と情報のPCの技術を融合させた授業ができた。 ・スマホの正しい使い方について理解を深めた。 ・情報での職員研修が開かれた。 ・教科だけではなく、講演会なども通じて情報モラルの育成は出来ている。 ・授業時に生徒の質問に対し携帯を使い、すぐインターネット検索を行うことで効率の良い授業が行えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PC室のインターネットで検索の仕方すらわかっていない生徒がいる。 ・出会い系サイトの危険性について認識を深める。 ・インターネットの普及を考える。 ・インターネットを使った授業については環境が整っていない。 ・スマホの操作はどの生徒も上手だが、PCの使い方は苦手な生徒が多いので技術向上が必要。 ・スマホでは画面が小さいので各教室でパソコンが使えたととても便利だと思う。 	
	情報機器や情報通信ネットワークの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・教科毎にインターネットを使った授業を工夫する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・教科毎にインターネットを使った授業を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PC室のインターネットで検索の仕方すらわかっていない生徒がいる。 ・出会い系サイトの危険性について認識を深める。 ・インターネットの普及を考える。 ・インターネットを使った授業については環境が整っていない。 ・スマホの操作はどの生徒も上手だが、PCの使い方は苦手な生徒が多いので技術向上が必要。 ・スマホでは画面が小さいので各教室でパソコンが使えたととても便利だと思う。 	
国際理解教育	他国の歴史や文化の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・関連教科において、他国の歴史や文化について理解を深める。 ・地域在住の外国人との交流で、他国の歴史・文化・生活習慣等を調べる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方の知り合いが来られた時は生徒が積極的に会話をしようとしていた。 ・担当ではないので分からないが、外国人を招くなど活発に行われている。 ・総合学習でうまく活用できた。 ・ミャンマーやイタリアの方々との交流があり国際交流が深まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国の方とふれあえる機会を増やしてほしい。 ・日本文化を交流で教えてあげられる生徒の育成。 ・外国人との交流を考えていく。 ・学校同士での交流を行いたい。 	
	環境・福祉教育	<ul style="list-style-type: none"> ・高年齢や障がいのある人などへの理解を深める指導の推進 ・命の大切さや思いやりの心など福祉に対する心、福祉への理解。福祉活動に取り組んでいく意欲や態度を育てる。 ・講演会の実施や、福祉及び環境に関するロングホームルームの機会をもち、課題研究のテーマ設定につなげていく。 ・ゴミ・リサイクル・省エネルギーなどの身近な問題から環境への関心を高め、よりよい環境を創造するための実践力を育てる。 		B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年の行事として地域交流の場へ参加した。 ・震災被害者の方との交流会は良かった。 ・福祉科があることで日常的に理解へとつながっている。 ・社会福祉科の生徒たちの活躍が光っていた。 ・地域の福祉施設との交流を通して様々な場面で生徒たちが活躍できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の施設等もボランティアの場を取り入れたい。 ・家庭科は初任者研修があるので学ぶ機会は増えたが、普通科の生徒に何らかの時間を利用して福祉の体験をしてもらいたい。 ・LHRでの機会は他科では時間を取っていない。 ・生徒会を中心にテーマをあげて取り組む。 ・普通科の生徒も福祉施設などの交流が計画されたらと思う。
学校の個性化・多様化	特色ある教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心や進路希望等に対応した類型を設置し、その教育目標・教育課程・年間計画を明確にする。 ・地域人材・有識者等の特別非常勤講師を招聘し、類型の特色化を推進する。 	B		<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を活用し、さまざまな視点を学ぶことができた。 ・着付け、アロマ、洋菓子、コグニサイズなど科の特色ある外部講師が来てくださることがとても良い。 ・外部講師の活用により授業の多様化が出来ている。 ・資格取得など成果はある程度上がっている。 ・外部講師の先生方より教養やスイーツなどを習うことができた。 ・各種検定など多くの生徒が挑戦し頑張っている。 ・今年度もたくさんの検定合格者がいた。保育検定が始まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して行えるか。生徒の状況にあわせたものであるか。 ・職場でリーダー的役割を持っている卒業生などの講演を行ったらどうか。 ・外部講師の利用については詳細な打ち合わせを行う時間がなかなか取れない。外部講師の力量にゆだねる形になっている。 ・外部教員は少ないので今後どう進めていくか考える。 ・普通科の生徒たちへの特色ある年間計画が必要である。
	外部講師の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師との詳細な打ち合わせを行い、より効果的な運用を図る。 ・外部教員の活用を促進するため、組織的に取り組めるような体制を整える。 ・生徒の多様な興味・関心に応えらるとともに、より高度な授業内容を位置づけ、発展的な学習活動を展開する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を活用し、さまざまな視点を学ぶことができた。 ・着付け、アロマ、洋菓子、コグニサイズなど科の特色ある外部講師が来てくださることがとても良い。 ・外部講師の活用により授業の多様化が出来ている。 ・資格取得など成果はある程度上がっている。 ・外部講師の先生方より教養やスイーツなどを習うことができた。 ・各種検定など多くの生徒が挑戦し頑張っている。 ・今年度もたくさんの検定合格者がいた。保育検定が始まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して行えるか。生徒の状況にあわせたものであるか。 ・職場でリーダー的役割を持っている卒業生などの講演を行ったらどうか。 ・外部講師の利用については詳細な打ち合わせを行う時間がなかなか取れない。外部講師の力量にゆだねる形になっている。 ・外部教員は少ないので今後どう進めていくか考える。 ・普通科の生徒たちへの特色ある年間計画が必要である。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師との詳細な打ち合わせを行い、より効果的な運用を図る。 ・外部教員の活用を促進するため、組織的に取り組めるような体制を整える。 ・生徒の多様な興味・関心に応えらるとともに、より高度な授業内容を位置づけ、発展的な学習活動を展開する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を活用し、さまざまな視点を学ぶことができた。 ・着付け、アロマ、洋菓子、コグニサイズなど科の特色ある外部講師が来てくださることがとても良い。 ・外部講師の活用により授業の多様化が出来ている。 ・資格取得など成果はある程度上がっている。 ・外部講師の先生方より教養やスイーツなどを習うことができた。 ・各種検定など多くの生徒が挑戦し頑張っている。 ・今年度もたくさんの検定合格者がいた。保育検定が始まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して行えるか。生徒の状況にあわせたものであるか。 ・職場でリーダー的役割を持っている卒業生などの講演を行ったらどうか。 ・外部講師の利用については詳細な打ち合わせを行う時間がなかなか取れない。外部講師の力量にゆだねる形になっている。 ・外部教員は少ないので今後どう進めていくか考える。 ・普通科の生徒たちへの特色ある年間計画が必要である。 	
		インターンシップ及び職業体験		<ul style="list-style-type: none"> ・各科の技術検定・ワープロ検定などの資格取得をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各科の技術検定・ワープロ検定などの資格取得をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して行えるか。生徒の状況にあわせたものであるか。 ・職場でリーダー的役割を持っている卒業生などの講演を行ったらどうか。 ・外部講師の利用については詳細な打ち合わせを行う時間がなかなか取れない。外部講師の力量にゆだねる形になっている。 ・外部教員は少ないので今後どう進めていくか考える。 ・普通科の生徒たちへの特色ある年間計画が必要である。
理事長による所見	重点目標に関しては意識して活動に結びつける職員が増加し、結果として生徒たちの活性化につながった。また、そのことが地域との交流を広げ、地域中学の理解が深まり、将来の募集の基盤を作れている。課題を参考にしながら職員、保護者、生徒もより満足度の高い次年度へつなげたい。					